

1. 科目名 (単位 数)	ソーシャルワーク演習Ⅱ (2単位) SNC2	3. 科目番号	GEBS2103
2. 授業担当教員	橋本 好広、小金澤 嘉		GEBS2103 GEBS2103
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>演習Ⅱは、グループ(小集団)理論、グループ・ダイナミクス理論を基礎にして、グループワーク(集団援助技術)の学習をする。特に、実践グループワークの方法を中心に、目標の設定方法、グループの構成方法、グループ・プロセス、リーダーシップ、凝集性、メンバーの役割、相互作用、グループの発達段階などを演習グループの体験を通じて学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅱが終了した時点で、下記の学習目標を達成することが期待される。 「学生自身がグループワークを使用できる最小限度の知識と技術の習得を目的とする」 より詳細には、下記の学習目標を達成することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グループ(小集団)とは何か、その基本的知識、特性の理解ができ、明瞭な説明ができる。 2) グループ・ダイナミクス理論とその主要概念の理解ができ、明瞭な説明ができる。 3) グループワークの歴史的発展、目的、特質、援助技術としての位置づけについて理解ができ、明瞭な説明ができる。 4) グループワークの発達段階(準備期・開始期・作業期・終結期)について各々の特質の理解ができ、説明できる。 5) グループワークの発達段階(準備期・開始期・作業期・終結期)についてのワーカーの知識、技術、役割、機能の理解ができ、説明ができる。 6) グループ・プロセス(過程)の理解ができ、説明ができる。 7) グループワークを行ううえでの最低の技術(リーダーシップ、個々のメンバーとグループ全体にどのように関わるか、プロセスの促進、凝集性の発達、葛藤の解決、コミュニケーション能力の発達など)に関しての基本的理解ができ、説明ができる。 8) 図工、音楽、ゲーム、行事などのプログラムを媒介役として、相互作用、凝集性の促進、役割・責務の遂行などについて理解ができ、実行することができる。 		
9. アサシメント (宿題)及びレポ ート課題	<p>課題1: 自分がこれまで関わったグループ(小集団)(例: 仲良しグループ、学級、高校の同窓会、勉強会、趣味のグループ等)を題材に、次にあげるグループの特性について例をあげて説明せよ(A4/3枚)。 ①どのような目的のグループか ②どのようにしてグループが作られたのか ③メンバーは何人か ④どのくらいの期間、継続しているのか ⑤どのくらいの頻度で会合を開いているのか ⑥グループの特性は何か ⑦あなたがグループに属する理由は何か ⑧今までにグループを止めた人はいるか、それはどのような理由からか ⑨グループの中心になっている人がいるか、それはどのような人格の人か ⑩グループの中で意見の相違、お互いの葛藤が生じた場合、どのように相違や葛藤を解決したか</p> <p>課題2: グループワークに関する文献を調べ、下記の「概念」の意味について自分の言葉で説明せよ(A4/3枚)。 ①グループ・ダイナミクス ②規範 ③役割 ④相互作用 ⑤凝集性 ⑥グループの発達段階 ⑦グループワーカーの役割と機能 ⑧メンバーの役割と機能</p> <p>課題3: リーダーシップ理論についてその概念についてまとめよ。(A4/2枚)。 まとめレポート: グループワークに関するまとめレポートの作成を課す。 ※詳細については授業内にて提示する。</p>		
10. 教科書・参考 書・教材	<p>【教科書】保田井進・硯川真旬・黒木保博『福祉グループワークの理論と実際』、2010年。 【参考書】平山尚・武田丈『人間行動と社会環境』、2004年。 野村豊子 監訳『グループワーク入門』中央法規、2013年。</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準 ・ソーシャルワーク演習Ⅱが終了した時点で、「学生自身がグループワークを使用できる最小限度の知識と技術の習得を目的とする」という目的のもと、8つの具体的な学習目標を達成することができたか。</p> <p>○評定の方法 1. 個人レポート(課題1~3) 60% 2. まとめレポート 40% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。 		

13. オフィスアワー	授業中に通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション グループとは何か 自分が体験したグループの目的、特徴、何が自分のためになったか。グループの良い点と悪い点はなにか。 演習Ⅱの学習目標は何か、何を、どのように学習するか。 (グループの目的と、個々のメンバーの目的は何か)	事前学習	テキスト第1章 (pp.2～9) の内容をまとめる
		事後学習	課題1の作成と提出
第2回	グループワーク基本的概念を理解する 相互作用、過程、規範、力動、凝集性、自己開示とはなにか体験してみる。 グループワークの歴史発達を理解する。 グループワークと他の実践技術との関係を理解する。	事前学習	参考書『グループワーク入門』第2章 (pp.71～98) の内容をまとめる
		事後学習	課題2の作成と提出
第3回	グループワークの理解の枠組み：グループの発達段階(準備期、開始期、作業期、終結期) グループワークのプロセスを学習する。 グループワークの記録の方式を学ぶ。	事前学習	テキスト第6章のうち pp.52～61 を熟読しその内容をまとめる。
		事後学習	グループワークの記録について学習したことをA4用紙1枚にまとめ提出する。
第4回	新しいグループを構成する 準備期：グループの計画 施設・機関のニーズを知る。どのようなグループを構成するか、参加者の募集(高齢者の孤立を解消する、児童養護施設での行動問題がある子どもの矯正グループ、統合失調症患者の家族のためのグループなど)。 グループワークの計画書を作成する。	事前学習	テキスト第6章のうち pp.52～53 を熟読し、グループ計画書を作成する。
		事後学習	構成されたグループメンバーにてグループワークの計画書を完成させる。
第5回	準備期 「契約書」を作成し、ワーカーとメンバー間で交換する。 グループワークの評価方法をきめる。	事前学習	テキスト p.77「評価の方法」を読み、その内容をまとめる。
		事後学習	講義内で用いた契約書をもとに、再度契約書を作成し提出する。
第6回	開始期 グループをどのように始めるか。「アイスブレイカー」を用意する。 ワーカーはグループ全体と個々のメンバーとの関係をつくる技術(メンバーの経験を普遍化する技術、メンバーのグループ・過程に参加を促進する技術)の習得。 グループのルール(規範)について話し合う。	事前学習	アイスブレイクに必要なアイデアを考えまとめる。
		事後学習	テキスト pp.53～56 の内容をA4用紙1枚にまとめ提出する。
第7回	開始期 「コミュニケーション技術の基本」を学習する。 メンバーの自己開示を促進する技術の習得。 メンバー間の思考、感情、行動を連携させる技術の習得。 リーダーシップについて。	事前学習	第6回に事前に配布されたプリントに目を通し、ロールプレイに必要な項目を準備する。
		事後学習	課題3の作成と提出
第8回	作業期 グループ過程を明確化する技術。プロセスの促進する技術、凝集性を発達する技術の習得。メンバーの役割を理解する技術、「葛藤解決技術」習得の習得。	事前学習	テキスト pp.56～59 を熟読しその内容をまとめる。
		事後学習	講義で取り上げた技術について1つを選択し、その内容についてまとめる。
第9回	作業期 「問題解決技術」と「認知再構成技術」の習得。	事前学習	第8回に事前に配布されたプリントに目を通し、ロールプレイに必要な項目を準備する。
		事後学習	問題解決技術もしくは認知再構成技術について1つを選びその内容をA4用紙1枚にまとめる。
第10回	作業期 メンバーの役割を理解する技術の習得。 活動(ゲーム、遊戯、図工など)を有効に使う技術の習得。	事前学習	テキスト第7章 pp.62～68 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	教員から提示されたプログラム活動についてその内容をまとめる。
第11回	作業期 活動(ゲーム、遊戯、図工など)を有効に使う技術の習得。 ソシオグラム(Sociogram)を作る。	事前学習	プログラム活動案を作成し、講義内でメンバーからフィードバックを受ける。
		事後学習	ソシオグラムについて学習したことを用いて家族のそれを作成する。
第12回	作業期 グループ内と外の社会資源を探し、有効に利用する技術(例：精神障害者の家族のための心理・教育グループ)。	事前学習	テキスト第7章 pp.68～72 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	特定のグループを想定し、そのグループに提供可能な身近で具体的な社会資源についてあげ、その活用と意義についてまとめ提出する。
第13回	終結期 グループの終結の準備(終結の予告をして、メンバーの終結に対する感情の話し合い)。	事前学習	テキスト pp.59～61 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	グループで実践してみる「終結作業」を通じて学び、感じたことをA4用紙1枚にまとめ提出する。
第14回	グループワークの評価方法を応用	事前学習	テキスト第8章 pp.73～81 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	これまで行ってきたグループ活動を通じてグループワークにおけるソーシャルワーカーの機能と役割についてA4用紙3枚にまとめて提出する(まとめレポート)。
第15回	まとめ 評価：教員と学生が演習Ⅱで学んだことは何であって、どの程度学習目標の達成ができたか。	事前学習	テキスト第9章 pp.82～88 を熟読し、その内容をまとめる。
		事後学習	ソーシャルワーク演習Ⅱでの学びを振り返り、ソーシャルワーク演習Ⅲに向けた自己課題をまとめる。